

**グリーンフィールドの
スーパーシティから始まる
未来社会をめざして**

大阪府・大阪市



- 大阪の都市課題の解決のためには、「**データ駆動型社会**」の実現が有効である。
- 大阪府・大阪市ではすでにスマートシティ戦略に取り組んでおり、「**健康といのち**」をテーマにしたグリーンフィールドでのスーパーシティを先駆けに、一層の都市DX戦略に取り組んでいく。

ユースケースの早期「見える化」

- ◆ データ駆動型社会の実現に向けては、利用者（企業、個人）にとって便利で使いやすいアプリケーション・サービスを、低コストで、一定規模で、スピーディに提示する必要がある。
- ◆ グリーンフィールドでのスーパーシティで大胆な規制制度改革を活用しつつ、健康、移動、安全、エネルギー、集客など、多様なサービス・プラットフォームを同時多発的に展開する。

好循環によるスケールアップ

- ◆ 個々の企業や自治体によるローカルプラットフォームが別々のままでは非効率であり、各々の個別最適化では限界がある。事業体、エリア、分野を超えて広くデータの連携、蓄積・利用できるレベルに早く移行する必要がある。
- ◆ グリーンフィールドの利点を生かしたスピーディな事業展開により実績を重ね、さらなる企業や人材を誘引する好循環を生み出す。

データ連携基盤による広域化の加速

- ◆ サービスの高度化を図り、真の都市DXを実現していくためには、事業体、エリア、分野の垣根を超え、ストック及びリアルタイムの多様なデータを最大限に活用する必要がある。
- ◆ そのために大阪全体の広域基盤である『大阪広域データ連携基盤（ORDEN）』を構築する。²

「健康といのち」をテーマに住民QoLを向上させる先端的サービスを展開 ～ 2つのグリーンフィールドで3つのプロジェクトを展開、大阪全体のブラウンフィールドへ～

『データで広げる“健康といのち”』がテーマ

2023年～

【夢洲コンストラクション】

建設工事現場内外の移動、
建設工事及び資材運搬、
建設作業員の安全・**健康管理**
の3つの円滑化を推進



2024年～

【うめきた2期】

(中核機能のテーマ)

ライフデザイン・イノベーション

超スマート社会が到来する中、IoTやビッグデータ等の活用により、創薬や医療機器開発などの分野にとどまらず、人々が**健康で豊かに生きる**ための新しい製品・サービスを創出



2つのグリーンフィールド
(夢洲、うめきた2期)

2025年

【大阪・関西万博】

(テーマ) **いのち輝く**未来社会のデザイン

(サブテーマ) 『Saving Lives (いのちを救う)』
『Empowering Lives (いのちに力を与える)』
『Connecting Lives (いのちをつなぐ)』



スーパーシティと万博レガシーを展開

大阪全体・
全国への波及

めざすは府民・市民のQoLの向上
「健康寿命の延伸」へ

輝く未来社会

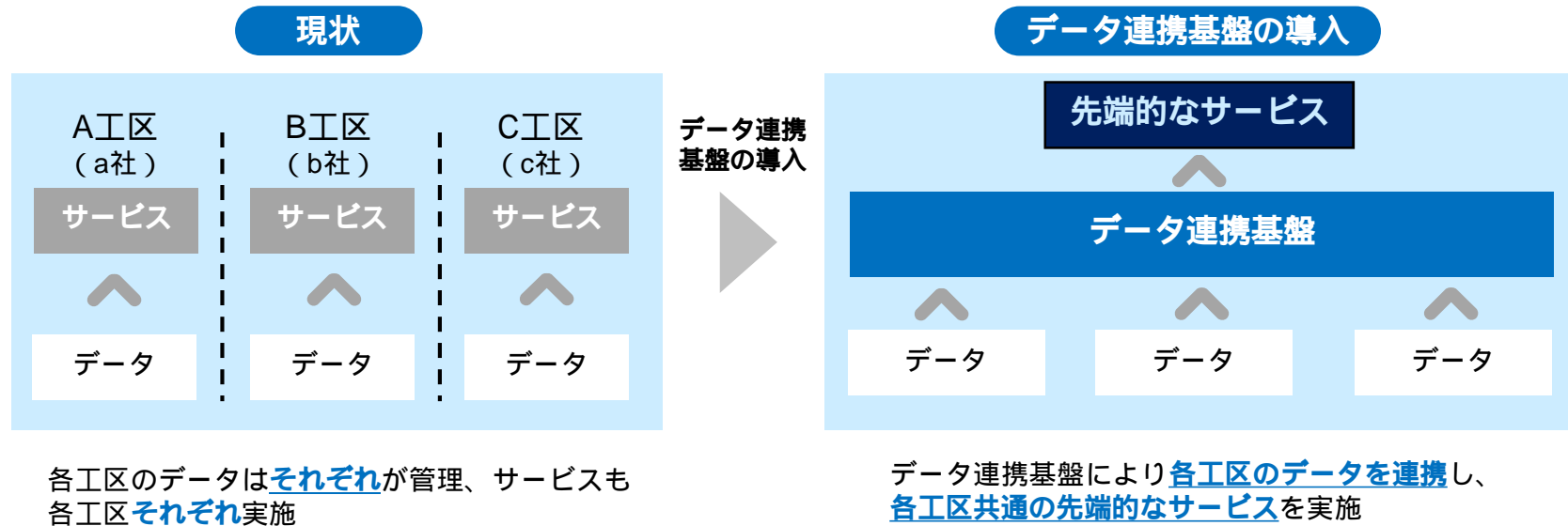
スーパーシティと
万博レガシーを
880万府民につなぐ

390haを開発・整備する「夢洲コンストラクション」では、 データ連携により、車両、人、モノの情報を繋いで健康で円滑な工事を実施

- 2025年の大阪・関西万博開催に向け、関連するインフラ工事を進めており、今後万博会場の基盤整備やパビリオンの建設が進む
- 複数の建設企業が多数の工区に分かれて建設工事を実施

データの境界とサービスの境界を越えた新たな先端的な建設プロジェクト

夢洲コンストラクション



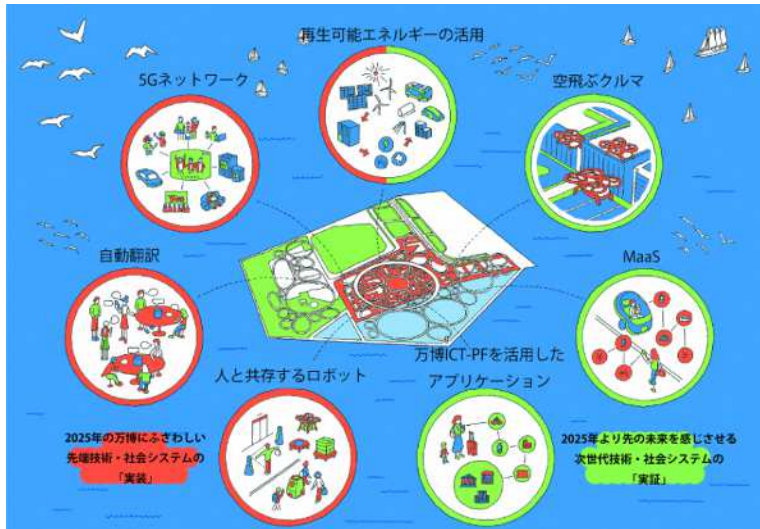
夢洲コンストラクションの3本柱（円滑化のための先端的サービス）

- 建設工事現場内外の移動
- 建設工事・資材運搬
- 建設作業員の安全・健康管理

「People's Living Lab（未来社会の実験場）」というコンセプトのもと
 「世界との共創」「テーマ実践」「未来社会ショーケース」の3つを実施

大阪・関西万博

未来社会のショーケース・イメージ



大阪・関西万博会場イメージ図
 提供：2025年日本国際博覧会協会

未来の健康・医療を提案する大阪パビリオン

【出展参加のテーマ】メインテーマ：REBORN（リボーン） “人”は生まれ変わる”、 “新たな一歩を踏み出す” という意味が込められている

バーチャルパビリオン〈Before〉

リアル・パビリオン [イメージ]



データ連携

バーチャルパビリオン〈After〉

データ連携基盤（大阪広域データ連携（ORDEN））との連携を検討

250万人/日が行きかうメガステーション前に立地する「うめきた2期」では みどり×IoT×健康による Parkness Challenge を実施

うめきた2期

ICTを活用し「みどり」を活かしたサービスを行い、うめきた2期の付加価値を高めていく

Parkness Challengeプロジェクトの4つの柱



Parkness Challengeで取組む5つのサービス

- 1 ヒューマンデータ利活用に資するプラットフォームの提供
- 2 パーソナルモビリティのシェアサービス
- 3 先端技術を用いた公園内・建物内における施設管理、配送などのマネジメント高度化
- 4 リアルとデジタルの融合した都市空間 = Parknessを実現するためのDX推進【プレイスメイキング編 (B2C)】
- 5 リアルとデジタルの融合した都市空間 = Parknessを実現するためのDX推進【屋外実証実験空間編 (B2B)】

提案対象区域は住宅エリア除く



- ・2020年12月時点のイメージ図であり、今後変更の可能性がります。
- ・提供者：うめきた2期地区開発事業者

取組む主なサービス

ヒューマンデータ利活用に資するプラットフォームの提供

- ・ヒューマンデータとAI分析等によるエビデンスに基づく健康増進プログラム



パーソナルモビリティのシェアサービス

- ・パーソナルモビリティによるエリアの回遊性やラストワンマイルの移動快適性の向上



リアルとデジタルの融合した都市空間 = Parknessを実現するためのDX推進

- ・先端的な技術や先駆的サービスを通じた「様々な体験価値」を市民や来街者に提供し、市民のQoL向上とライフデザインイノベーションを実現する仕組みの提供

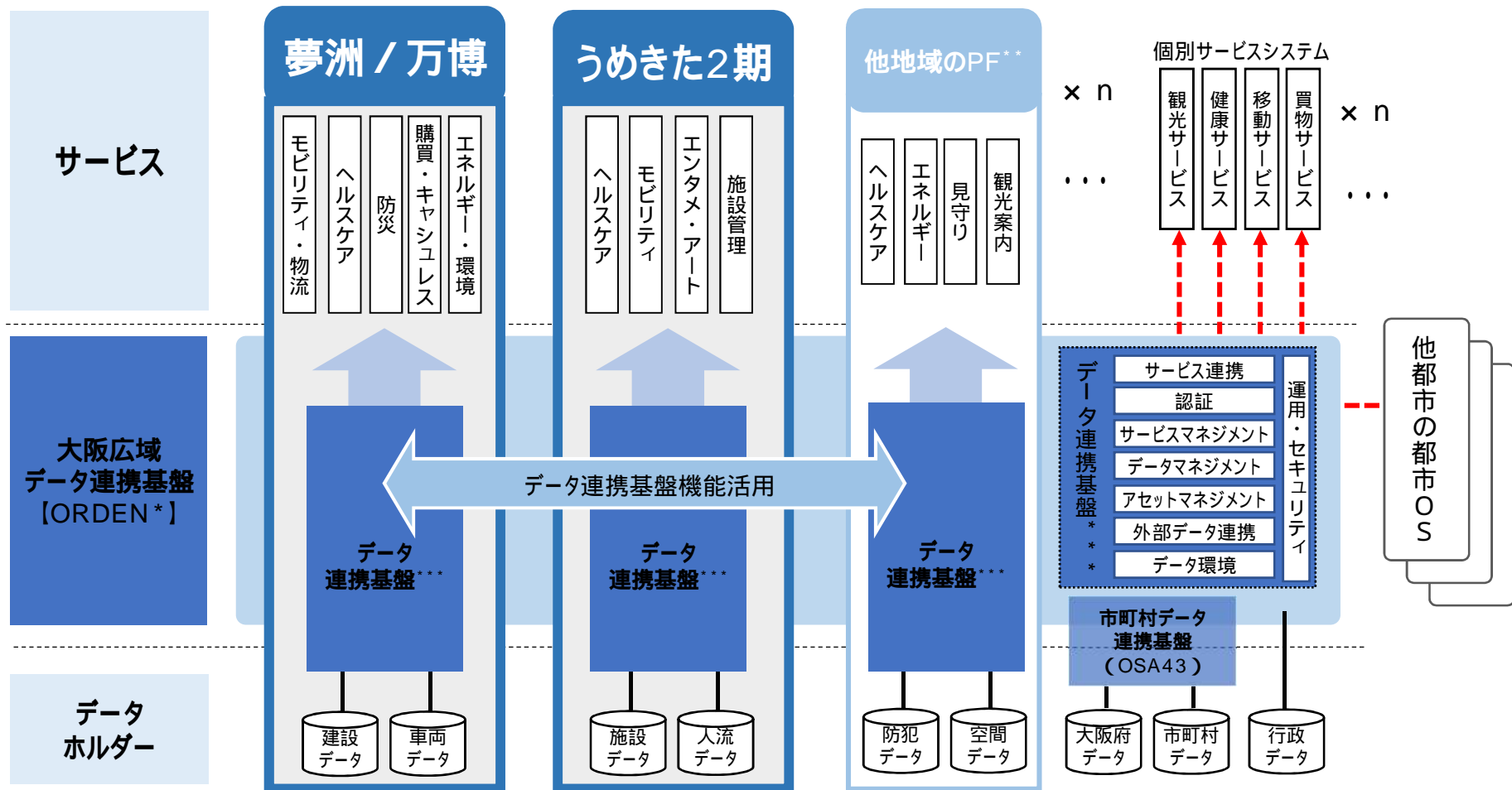
次世代スポーツ・エンタメイベント
スポーツ・エンタメ×リビングラボ

公園内の仮設会場での世界的スポーツ・エンタメの開発誘致

フィギュアスケート	アーバンスポーツ	テニス
フリスビードッグ	e-Sports	ライブイベント

2つのグリーンフィールドにおけるスーパーシティの展開を機に 広域のデータ連携基盤を構築

データ連携基盤



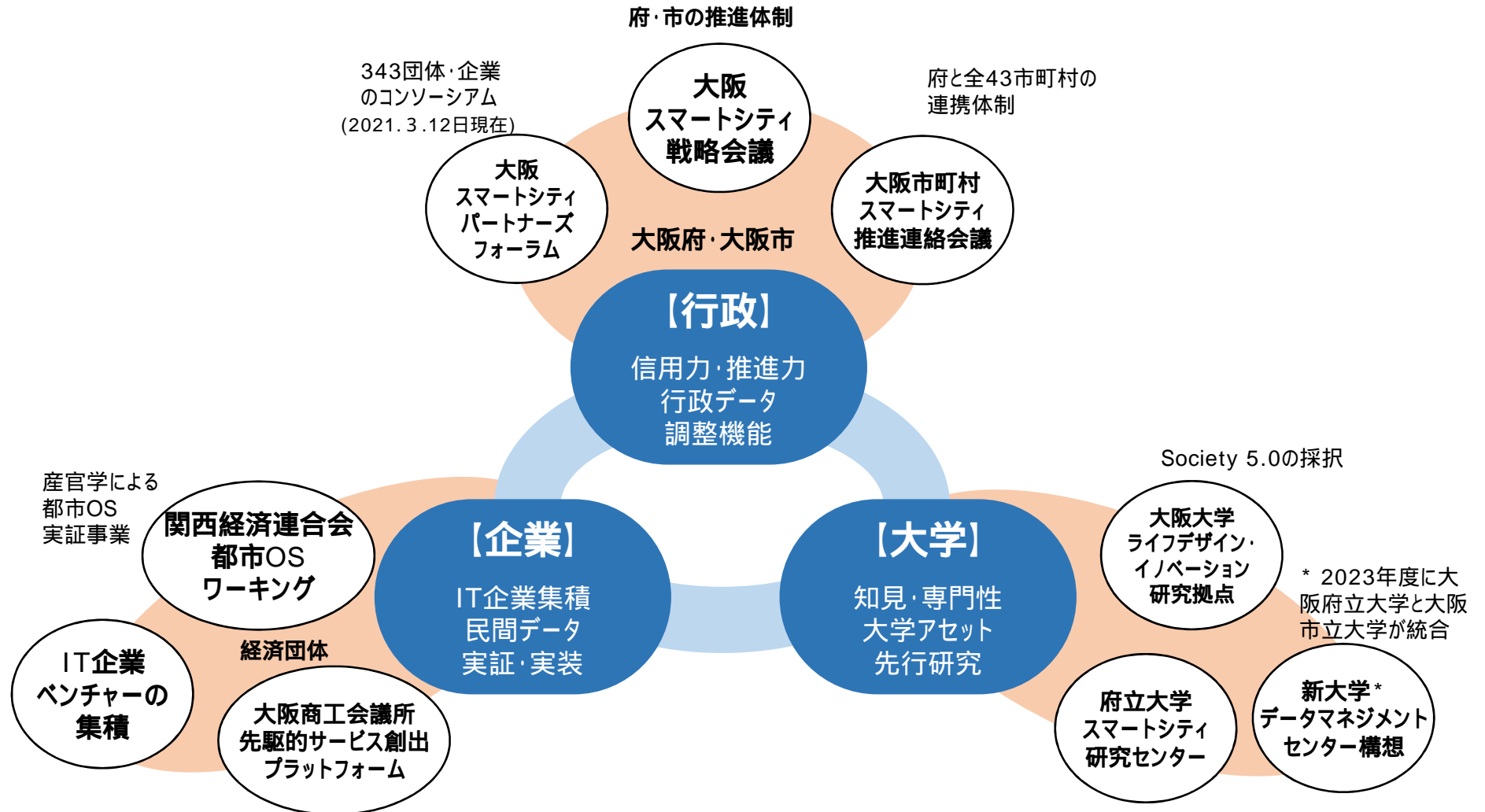
* ORDEN (オルデン) とは・・・Osaka Regional Data Exchange Networkの頭文字。

** PF: プラットフォームの略

*** 本図はORDENの完成型をイメージしたもの。各PF間の接続や、これらの地区毎等のPFとORDENの接続については今後、あり方を検討していく。

グリーンフィールドで、広域データ連携基盤を活かす、スピーディな スーパーシティは、産官学による豊富なリソースと、強固な連携により強力に推進

大阪にはすでにスマートシティの実現に向けて、産官学を問わず、様々な推進体制が構築され、他都市を凌ぐ企業や大学の集積・連携というアドバンテージがある。（スーパーシティ推進の素地がすでに存在）



大阪府・大阪市のスーパーシティ全体スケジュール

スケジュール

